大門小だより11月号

学校HP

令和8年　10月29日
横浜市立大門小学校

学校 HP（今日の給食を毎日掲載。学校の様子も定期的に更新！） https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/daimon/

大空と大地に思いを寄せて

主幹教諭　三井　信乃

「四じかんめの　ことです。一ねん二くみのこどもたちが　たいそうを　していると、空に、大きな　くじらがあらわれました。…」

この書き出しを聞いて、思い当たる方が多いのではないでしょうか。

1年生の下の教科書に掲載されている中川李枝子さんが書いた「くじらぐも」です。この作品は、1971（昭和 46）年からです。50 年以上にわたり教科書で教材として使われています。きょうだいは、もちろん親子で同じ教材を学習した方も多いのではないでしょうか。

今、私と 1 年生と「くじらぐも」の学習を進めています。「この話を聞いてどう思った？」と、尋ねると子ども達からは、「くじらとなかよくなりたい。」「のってみたい。」「ともだちになりたい。」と話していました。

実は、私も子どものころ同じようなことを強く思っていました。「あの雲にのりたいなぁ～。」と、本気で考えていたことを思い出します。

今も昔も時代が変わっても、小学校 1 年生が大空に浮かぶ雲に感じることや願うことは、変わらないものがあるのだとしみじみ感じました。大空を見て心が晴れ晴れことを体感したのは、小学校1年生のくじらぐもの学習をしてからかもしれないなと、改めて感じました。



私がもう1つ心が晴れ晴れする場所があります。それは、土を触ることです。

大門小学校にも畑があり、子ども達と楽しい時間を過ごしてきました。畑で土を触わりながら、子ども達とたわいのない話をしながら穏やかな時間を過ごしました。

ナスをはじめ様々な野菜を育てて収穫してきました。野菜の大きくなる過程を楽しみにしたり、土の中か掘り出した野菜の大きさにびっくりしたり、たくさんの歓声と笑顔があの畑から生まれてきました。土を掘っていると幼虫が出て大騒ぎしたことも今では、楽しい思い出です。大門小学校の宝物でした。

その畑もいよいよ11月に畑じまいを迎えます。長年にわたり子ども達の学びを支えてきた大切な財産がなくなることは、寂しいことですが、畑の植物を育てる楽しさや収穫する喜びは、子ども達の心に残り続けると思います。